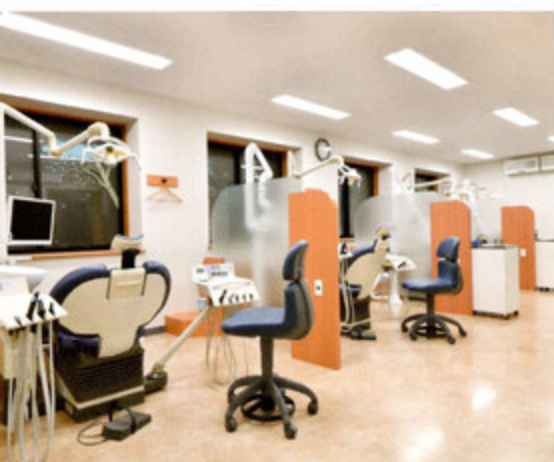


「ストレスフリー」の真の意味を再考する

福島県郡山市 | 医療法人社団 光進会 うすい歯科医院 | 院長 薄井 隆 先生

福島県郡山市で開業し、18年目を迎える『うすい歯科医院』。院長である薄井隆先生のコピーは“私だったらこんな歯科医院に行きたい”。一般歯科、審美治療はもちろん、歯周病、インプラント治療と、診療科目は多岐にわたる。ユニット数13台という規模で長年地域の歯科医療の中核をなしている。地方都市の大型歯科医院の存在は決して珍しくない昨今、薄井先生が築き上げたコンセプトとは何か？その経緯と理由についてレポートする。





福島県郡山市 医療法人社団 光進会 うすい歯科医院

院長 薄井 隆 先生

〈プロフィール〉

1989年 奥羽大学歯学部卒業

1989年 奥羽大学 保存科 第2医局入局

2000年 うすい歯科医院 開業

〈所属学会〉

日本歯内療法学会

日本歯周病学会

日本先進インプラント医療学会

米国インプラント学会 (AAID)

13台ものユニットがありますが、この規模は最初から想定されていたのでしょうか

18年前の開業当時、ユニットは3台でスタートしました。日々患者さんは増え続け、建物も拡張しながら2台追加、4台追加、とユニットを増設し続け、結果13台になった、という感じでしょうか。もちろん近隣からの患者さんが多いですが、インプラント等の大きな症例は近県からもわざわざ来院して下さる患者さんもいらっしゃいます。規模の大小に係らず、また治療の内容問わず、私が大事にしている理念は「自分がかかりたい歯科医院」、「自分が受けたい診療」です。それを実現するためには「清潔な衛生環境で滅菌された器材を使用」して「痛みのない治療を提供する」ことが重要です。その理念を日々積み上げた結果だと思えます。

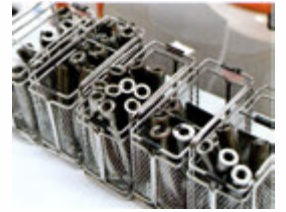


デンタルユニット「トリートメントセンター」を導入されたきっかけとその理由は

タービンハンドピースのとの出会いが全てです。開業前、知人のドクターに「このタービンで削ると痛くない」と聞いて、実際にその知人に自分の治療をしてもらいました。興味本位で複数本他社のものと比較させてもらったのですが、確かに痛くなかった。当時シロナ社は高額で自分には無理、せめてタービンハンド

ピースだけでもと思っていました。ところが他社ユニットとハンドピースを組み合わせると、同じトルクが出ない。ユニットの機構からして違うんですね。だめもとでシロナ社の見積りをとってみると、予想外に手の届く価格帯だったので迷うことなくオーダーしました。もうひとつの決め手は、サポート体制でした。シロナ

社は当時から全国に拠点を構えており、何か問題が起こってもそれほど時間を要さず対応いただいた、というのは大きな安心でした。



「トリートメントセンター」は診療においてどのような役割を果たしていますか

患者さんは皆さん心理的にマイナスの状況で来院されます。歯の痛み、審美的悩みなど様々なストレスを抱えた状況です。そして患者さんが最初に触れるのがユニットです。もしそのユニットが居心地悪いもので、痛みを与えるものであったらどうでしょう？患者さんに絶対的な安心を与えるものでなくてはなりません。それこそデンツプライシロナの「ト

リートメントセンター」だと思います。例えば患者さんの身体にショックを与えないスムーズな動きや、身体をしっかり支えるシートの形状、軸ブレが少ない強トルクのハンドピース。これらは患者さんの抱えているストレスを最小限にとどめ、むしろリラックスさえ与えます。これこそ治療を成功に導いてくれる要素なのです。導入当初、シートの動きがやけにゆっく

りだなと思ったのですが、患者さんのストレス軽減のためであったり、患者さんの緊張をほぐす腕や手の位置、疲れない膝の位置など、ドイツ人ならではの英知に気づかされることが多くあり、感服した記憶があります。ここまで計算し設計がなされているのだな、と。

薄井先生にとって“よい治療”とは？

患者さんがリラックスできるユニットで、清潔な衛生環境のもと滅菌された器材を使用し、痛みのない治療を提供すること、ではないでしょうか。その実現にデンツプライシロナの「トリートメントセンター」は欠かすことのできない良きパートナーです。デンタルユニットの選択においては「ランニングコスト」「耐久性」「患者さんの快適性」「術者の操作性」などを検討に入れるべきですが、実際に診療で使ってみればその違いは必ず分かります。クリニック

内の器材で最も投資すべきものはデンタルユニットであると思います。私のクリニックでは一番長いもので開院当初から17年以上経っていますが、大きな故障もなく現役で使用しています。なによりも古さを感じさせないデザインと堅牢性に満足しています。自分が寝る布団より長い時間をデンタルユニットと共に過ごすわけですから、当然一番良いものを選びたいですね(笑)

